

⑨日本分類
129 E 0
127 C 95

日本国特許庁

⑪実用新案出願公告

昭44-13195

⑩実用新案公報

⑫公告 昭和44年(1969)5月31日

(全3頁)

1

⑬調味料容器用の受台

⑭実 願 昭42-39345
⑮出 願 昭42(1967)5月11日
⑯考 案 者 明道登
燕市大字燕3080新光金属株式
会社内
⑰出 願 人 新光金属株式会社
燕市大字燕3080
代 表 者 明道登
代 理 人 弁理士 吉井昭栄

図面の簡単な説明

図は本考案の実施の一例を示すものにして第1
図は平面図、第2図はA-A線の断面図である。 15
考案の詳細な説明

本考案は調味料容器用の受台に係るものにして
台1に突出せしめた軸杆2に調味料容器3の受台
4を廻動自在に設けると共に受台4より前記軸杆
2を突出せしめて該軸杆2に載置台5を固定し該
載置台5上にナベ、湯沸し6等を載置せしめる載
置棒aの3本乃至4本の脚7に係止保持せしめる
係止凹部8を形成せしめて成るものである。 20

尚図面の受台4はその周囲に孔9を穿孔してこ
の孔9に調味料容器3を嵌着支承せしめているが 25
この孔9を凹部に形成しても良い。

亦載置台5は周縁部を少し残して浅い凹部10
を形成しこの凹部10の外側3個所に係止凹部8

2

を連設形成しているものである。

図中11、12はベアリング、13、14はそ
の受凹部15は軸孔、16、17は止ビスである
本考案は上述の様に構成したから受台4の周囲に
数種類の調味料容器3を載置しその上部の載置台
5には載置棒aを載置し、載置棒aに載置せしめ
たナベ、湯沸し6等をバーナーにより煮炊しなが
らこのナベ、湯沸し6等の中に適宜な調味料容器
3から調味料を取り出し投入せしめて調理するもの
である。 30

この際受台4は廻動するから載置台5をそのま
まの状態にしておいて受台4を自分の位置即ち調
味料の取扱い位置まで移動せしめる事が可能とな
るから極めて調理し易いものとなる。

その上この載置台5には載置棒aの脚7に係止
する係止凹部8を形成しているからこの係止凹部
8により脚7は確実に係止保持されて載置される
から載置台5より外れる事が全然なく安心して煮
炊する事が出来る等秀れた実用上の効果を有する
ものである。 35

実用新案登録請求の範囲

本文に詳記する様に、台1に突出せしめた軸杆
2に調味料容器3の受台4を廻動自在に設けると
共に受台4より前記軸杆2を突出せしめて該軸杆
2に載置台5を固定し該載置台5上にナベ、湯沸
し6等を載置せしめる載置棒aの3本乃至4本の
脚7に係止保持せしめる係止凹部8を形成せしめ
て成る調味料容器用の受台の構造。

(2)

笑公 昭44-13195



